

児童・生徒の「大好き!」「知りたい!」「伝えたい!」を重視する。

2014.1.8



なぜ、今、教師主導、講義形式の授業から児童・生徒主体への改善が求められているのでしょうか？

社会状況の劇的変化

その一例として - 知識基盤社会 -

- 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む。
- 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。
- 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となる。
- 性別や年齢を問わず参画することが促進される。

中央教育審議会答申より

国語科の役割

- 言語の教育としての立場を一層重視する。
- 小学校においては「日常生活に必要な基礎的な国語の能力」中学校においても「社会生活に必要な国語の能力の基礎」を身に付けることが求められている。

単に知識を教え込むだけでは、対応できない。

課題を解決する過程において、主体的な思考や判断、表現を促す言語活動を重視した授業づくりが不可欠となる。

そのために

「大好き」「知りたい」「伝えたい」等の児童生徒の主体的な意識がもてる言語活動を選択することが重要



次の二つの点に留意し、児童・生徒主体の授業への改善に努めてみましょう。

児童・生徒の発達段階を考慮した言語活動の選択

アンソロジー作り	私のおすすめの1冊	紙芝居	なりきり
図鑑にまとめる	ディベート	ブックトーク	群読
詩のボクシング	リライト	紹介カード	創作
手紙を書く	ペープサート	新聞にまとめる	紀行文
			ポスター 等

小学校低学年

自分の漠然とした思いや考えを言語化するために
「大好き」「すごい」「おもしろい」等

小学校中学年

好奇心旺盛なこの時期の子どもたち
「気になる」「疑問」「不思議」等

小学校高学年

小学校の国語の学習で学んできたことをもとに
自分の考えを「伝えたい」 友だちの考えを「知りたい」等

学級の実態や児童・生徒の個に応じた、柔軟に考えることも大切です。



中学校

自我の確立期、知的好奇心をくすぐりながら
自分の考えを「深めたい」 友だちとの交流を通して「伝えたい」
もっと深く広く「知りたい」等

導入の段階での工夫

- 実物を提示するなど、関心・興味を大切にした導入
- 驚き、疑問、矛盾、対立などの要素を含んだ導入
- 調べたい、やってみたいなどの気持ちを引き出した導入
- 能力に照らして、易しくなく、難しすぎない内容で導入
- 既習事項や体験が活かされる内容で導入

児童・生徒の心を「感じる」
「つかむ」「励ます」「認める」
ことを心がけましょう。

